木工品づくりひとすじ33年

■鳥取県伝統工芸士に認定

西村孝美さん（福長）

ルーターを使い木材を削る西村さん。思い通りに仕上げるため刃も自ら調整

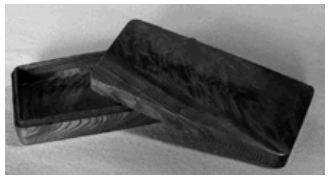
地元産の材料にこだわり創作を続ける

3月22日、県内で工芸品を作る人の中で優れた技術・技法をもつ伝統工芸士に、西村孝美さん（福長）が認定されました。町内の伝統工芸士は西村さんが初めて。

西村さんは、33年前からルーター（電動彫刻工具）を使った木工品の制作を始めました。「ルーターを使いこなすのは本当に難しく、自分の納得いくものができるまでには10年かかりましたね」と西村さん。

材料のほとんどは町内産のケヤキ・クワ・スギなど。「気候の厳しい日野町で育ったせいか、木目が美しく扱いやすいのが特長です」。

西村さんが作るのは盆や棗（なつめ）、硯（すずり）箱などの刳物（くりもの）や挽物（ひきもの）が中心。さまざまな注文に応じて、作業場でほぼ毎日作業をしています。「作業で一番大切なのは精神を集中させること。ちょっと考え事をするだけでも手元が狂うことがあるので、特に神経を使う細かい作業をするときは、作業場に中から鍵をかけ、誰も入ってこないようにしています。また、精神集中のため、お寺に座禅を勉強しに通った時期もありました」と、苦労もにじませます。



そんな西村さんに木の魅力を尋ねると、「木だけを使った家を米子に新築しましたが、木に囲まれていると家の中の植物が元気になったり、自分の体調も良くなっている気がします。そんな不思議な力が木にはあると思います」と話しました。

これからの目標については、「認定していただいたのを機に、時間をかけて大規模なものをつくろうと計画しています。また、タオル掛け・タオル入れなど、日常的に使える便利なものの開発をしていきたいですね」と意欲十分。今後の活躍が期待されます。

まちの課題など話し合う

第2回日野町まちづくり町民会議

3月28日、第2回の日野町まちづくり町民会議が町役場で開かれました。

はじめに今年度予算について説明

会議に先立ち、松本豊文委員長があいさつし、「日野町はいろいろな面で財政が厳しく、明るいまちづくりのために協力しあわなければならない。この会での意見をまちが吸い上げながら良い方向へ向けてほしい。前向きな意見をどしどし出していきましょう」と話しました。

今回の会議では、はじめに、3月23日に町議会で承認された、まちの平成19年度予算の概要について吉留助役からの説明がありました。

委員からごみ処理について提案される

続く意見交換では、松本洋一委員（根雨）が、ごみの分別を徹底して経費削減に成功した徳島県佐那河内村の事例を紹介、日野町で取り組むことができればと提案がありました。

佐那河内村は、面積42・3平方キロ、人口約2800人の小さな村。平成14年から、ごみの徹底分別の取り組みを始め、現在では村内の全世帯が33品目の分別に地域ぐるみで取り組んでいるとのこと。それにより、ごみの処理費用や人件費など、2年間で約1300万円もの経費が削減されたということです。

この提案をきっかけに、委員どうしで身近なごみ問題についての意見が出されました。

「高齢者世帯にとってはごみ出しもひと苦労。町民どうしのコミュニケーションで助け合うことができればいいと思う。また、助け合わなければならない時期に来ていると思う」などの意見や、「地域での一斉清掃の際、古タイヤなどが不法投棄されているのを見つけたが、どこに連絡すればいいのか」との意見もあり、まちからは「不法投棄を見つけたときは、町道なら町、河川なら県など、管理者のところに連絡してもらえばよいが、とりあえず役場に連絡いただければ対応します」との回答がありました。

積極的に委員からの提案が出されました

活発な意見交換

委員から厳しい意見も

続く意見交換の中で、委員からは「この会議の場で話をしても、話をしただけの会になるのではないか。この会議の結果をどう町民に伝えるのか。そうした連絡体制を考えていかなければ」との意見がありました。

町長は、「この会議で出された意見の中で、まちの施策に取り入れられることはすぐに取り入れ、お金のかかることについては審議をしていきます。また、この会議の結果は広報ひのに掲載し、町民の皆さんに発信していきます」と回答しました。

このほか、「住民負担はわかるが、町内にお金を稼げるところは皆無に等しい。企業誘致などを考えたい」との声に、「企業誘致はたえず努力していますが、今ある企業も大切にしたいです。町内の企業として日野病院や老人保健施設などの雇用も考えられます」など、熱心に意見交換されました。

この後は、今後の会議の進め方について審議され、次回の会議を5月中旬に開くことになりました。